



国際ロータリー第2680地区
Rotary
加古川ロータリークラブ



Weekly Reports 2018-2019

2018-19年度RI会長; パリー・ラソン / 地区ガバナー; 次野 宗司
加古川ロータリークラブ会長; 岡田 義則 / 幹事; 水川 典明
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口800番地 加古川商工会議所会館5F
TEL 079-423-0661 FAX 079-423-0677 e-Mail kakogawa@rotaryclub.ne.jp

平成30年9月25日(火) 晴 No. 11



▲ポールハリスフェロー表彰



▲松井会員の自己紹介



▲穴田会員の自己紹介

会長挨拶

会長 岡田 義則

こんにちは、9月は秋の運動会や敬老の日のお祝い事やお彼岸のお墓参り等、行事が多く忙しく過ごされたことと思います。今日はお彼岸について少しだけ掘り下げてみたいと思います。(Deepen)

春のお彼岸は3月の春分の日を中日として前後3日間の計7日間を期間とし、秋のお彼岸は9月の秋分の日を中日として前後3日間の計7日間を期間とします。

春分の日と秋分の日、国立天文台が発行する官報での公表をもって、翌年の日程が定められることになっています。

日付を決める際には、国立天文台が作っている歴象年表から天文学的な春分日と秋分日を割り出しているとのこと。彼岸という言葉はもともと仏教の言葉であり、意味としては煩悩を脱した悟りの境地のことを指しています。

煩悩とは、心身を悩ませ、乱し、煩わせ、汚すすなわち悟りの境地を妨げるあらゆる精神作用のことです。さらに、三途の川をはさんで、我々が住んでいる世界を此岸(しがん)、そして向こう側の仏様の世界を彼岸といいます。

つまりお彼岸とは、我々人間の迷いや苦しみの原因となる煩悩のない、悟りの境地に達した世界であり、極楽浄土のことを言います。

また、お彼岸という言葉には、数々の煩悩に打ち勝ち、悟りの境地に達することができるように、仏道の修行を積む期間という意味合いもあるようです。

普段から仏道の修行を行っていない人も、彼岸の期間になると、煩悩を払うために西に沈む太陽に祈りを捧げていたようです。通常、春分の日と秋分の日の中日は、太陽が真東から出て真西に沈みます。よって、この日に沈む太陽を拝むことは西にある極楽浄土に向かって拝むことになるのだとされています。私たちが普段耳にするお彼岸という言葉は、悟りを開くための仏道修行というよりは、この期間に行われる彼岸会の法要やお墓参りのことを指していることが多いかもしれません。

お彼岸という言葉の由来について考えてみましょう。

彼岸という言葉は、サンスクリット語の「パーラミター(波羅蜜多)」の漢訳「到彼岸」を略した言葉であると言われていました。

サンスクリット語の「パーラミター」とは本来は完成する、成就するといった意味がある言葉です。その完成するといった意味が転じて、仏道の様々な修行において達成されるべきものであるという意味合いを示すようになっていったとのこと。

有名な仏教の経典の一つである般若心経にも「般若波羅蜜多」という部分があります。この「波羅蜜多」が「パーラミター」のことであり、悟りの境地に達すること、またはそのために積むべき修行という意味を持つ言葉なのです。

我々の世界に溢れる煩悩や苦しみ、欲といったものから逃れ、自由になるために悟りの境地に達することが、仏教における「パーラミター」です。この思想がやがて、我々日本人古来の風習や自然観、そしてご先祖様を崇拝するという習慣と結びついていくことで、此岸という我々の住む世界を表す言葉と、彼岸という仏様の世界、すなわち悟りの境地に達した世界を表す言葉が生まれました。お彼岸という期間は仏教の影響を受けていながらも、実は他の仏教国では設けられていませんし、ご先祖様を供養するといのも日本独自の風習です。日本では、この期間には彼岸会の法要を行っている寺院が多く存在します。宗派は問わず檀家同士で集まってご先祖様を供養しお墓参りをするという日本古来のお彼岸の風習が根付いているのです。

最後に敬老の日になんだ小話を紹介いたします。

3人の親孝行な息子たちが母親にそれぞれが競ってプレゼントを申し出ました。長男は、「大きなお家をプレゼントするよ!」、そして二男は、「僕は運転手を付けてロールスロイスを贈るよ!」三男は、「僕はお母さんが淋しくないように何時でも話し相手が出るオウムをここに持ってきたよ!見て!賢いんだよ、お兄さんたちの贈りものよりずっと高価なんだ。」それから数日後、母親からの子供たちに手紙が届きました。『ありがとう、ひとり暮らしのわたしには大きなお家はもう必要ないわ、運転手付きのロールスロイスも、近くはできるだけ歩くようにしているし、めったに行かないから遠くに出掛ける時はタクシーでも呼ぶわ、気持ちだけ受け取っておくわ、本当にありがとう。でも末っ子の貴方が一番私のことを分かってくれたのね。とてもうれしかった、鳥は大好物よ!とても美味しく戴きました。御馳走様でした。』

これで会長の時間を終わります。本日の卓話は新入会員の自己紹介です。松井、穴田、両会員、よろしく願いいたします。

幹事報告

- 1) 加古川東ライオンズクラブさんの会報頂いております。回覧しますのでご覧下さい。
- 2) BOX にロータリー米山記念奨学事業豆辞典をいれております。
- 3) 先週対象者にお配りいたしました3クラブ合同例会親睦ゴルフコンペの案内で、インスタート2組松尾様のクラブイニシャルが間違っておりました。誤り K → 正 H お詫びして訂正させていただきます。
- 4) 来週10月2日の例会はありません。10月4日(木)午後6時から開催されます3クラブ合同例会に変更になっております。お間違えのないようにお願いします。

ニコニコ



- 省 略 ☺ 河合様、日曜日は大変お世話になりました。岡山国際サーキット楽しかったです。
- 省 略 ☺ 松井会員、本日の自己紹介楽しみにしています。宜しくお願いします。
- 省 略 ☺ 穴田会員、本日の自己紹介楽しみにしています。宜しくお願いします。
- 省 略 ☺ 前川様、竹位様、山口様、昨日はありがとうございました。
- 省 略 ☺ 穴田会員、松井会員、本日の自己紹介よろしくお願い致します。
- 省 略 ☺ 本日は宜しくお願いします。
- 省 略 ☺ 本日は自己紹介の機会を与えて頂きありがとうございます！ド緊張！よろしくお祈いします。
- 省 略 ☺ 穴田さん、松井さん、本日の卓話楽しみです。宜しくお願いします。
- 省 略 ☺ 穴田会員、松井会員、自己紹介楽しみです。
- 省 略 ☺ 穴田会員、松井会員、自己紹介頑張ってください。デビュー戦楽しみにしております。
- 省 略 ☺ 穴田会員、松井会員、卓話楽しみにしています。
- 省 略 ☺ 穴田会員、松井会員、自己紹介、楽しみにしています。
- 省 略 ☺ 穴田会員、松井会員、自己紹介、楽しみにしております。あとから話される方は13:29分ちょうどで終わるよう時間調整お願いします。
- 省 略 ☺ 穴田会員、松井会員、本日の自己紹介楽しみにしています。
- 省 略 ☺ 穴田さん、松井さん、自己紹介楽しみにしています。頑張ってください。
- 省 略 ☺ 松井会員、穴田会員、自己紹介楽しみにしております。
- 省 略 ☺ 穴田君、松井君、私、欠席ですががんばって！
- 省 略 ☺ テーブルの花いただきます。

以上18件 ¥26,000-
本年度累計¥575,000-

出席委員会

☆ 今 週 会員数 78 名 出席 38 名 出席免除 19 名 欠席 21 名 64.40%
☆ 欠 席 者 省略

☆ 前 々 週 会員数 78 名 出席 56 名 出席免除 15 名 欠席 7 名 88.88%
☆ メークアップ 加古川平成 9/19 岡井、吉田実、橋本真、河合、前川真、高浜

親睦活動委員会

例会場当番
10月4日(木) 前川真、芝本
10月9日(火) 松尾、水埜



プログラム委員会

本日9月25日(火)	10月2日(火)	10月9日(火)	10月16日(火)
新会員自己紹介 穴田・松井 担当	例会変更 3クラブ合同例会 10月4日(木) 午後6時～ 於;加古川プラザホテル	フォーラム 公益財団法人 PHD協会 事務局長 坂西 卓郎氏 米山記念奨学会担当	例会変更 「親睦旅行」 10月13日(土)～ 10月14日(日) 於;博多方面

10月のおよろこび

- ◆ 誕生日祝 省略
- ◆ 結婚記念日祝
- ◆ 出席表彰
- ◆ 会社創立記念日

人工サンゴ礁が海と漁村を救う

海洋生物とフィリピンの漁村の人々の生活を救ったロータリー歯車形の人工サンゴ礁

ラモン湾の静かな青い海。その底に、地元漁師の誇りとロータリーへの感謝を示すかのように、ロータリー歯車形の巨大な人工サンゴ礁が見えます。

1990年代の終わりから2000年代のはじめ、この辺りでは大きな商業漁船によってダイナマイト、シアン化物、メッシュ網を使った漁が横行し、地元漁業が壊滅的な被害を受けていました。沿岸の村々にとって漁業は欠かせない産業であり、長年、村の漁師たちは家族を養うこの海を守るために闘ってきました。

2005年、漁師たちはアチモナン・ロータリークラブ(フィリピン、ケソン州)に助けを求めました。

そこで同クラブは、米国カリフォルニア州のマデラ・ロータリークラブと手を組み、ロータリーの補助金を利用して予算100万ドル以上のプロジェクトを開始。ロータリー歯車形の人工サンゴ礁をつくりました。この人工サンゴ礁には、サンゴが育つための十分な面積と、魚たちが住むためのたくさんの奥まった空間がありました。沿岸から600メートルのところにあるこの鉄筋コンクリート製歯車は、高さ4メートル、直径21メートルで、重さは数トンあります。今日、フィリピン最大の人工サンゴ礁とうたわれるこの歯車は、サンゴに包まれ、アジ、クロハギ、フエダイ、ハタ、ハタタテダイ、ヒラメ、コバンアジ、バツフィッシュ、バラクーダなどの魚が集まってきます。数回の台風も耐え抜きました。

「サンゴ礁ができる前、一人1キログラム程度の魚しか穫れなかった」と話すのは、アチモナン・ロータリークラブのオカ・チュア元会長です。「今では1日に一人2キロぐらい穫れます」



この取り組みがもたらした恩恵は、魚の保護だけではありません。サンゴ礁のおかげで観光客が増え、村の経済もうるおいました。漁師たちは竹製のいかだを作り、ダイビングや魚の餌付けを楽しむ観光客に貸し出しています。

(フィリピンのロータリー地域雑誌に掲載された記事より)



フィリピン、アチモナン(ケソン州)の漁村では、ロータリー会員が地元の漁師たちと協力して人工サンゴ礁をつくり、漁業を救いました。